

知事との県民対話集会（南木曾町）概要

- ・開催日時 令和5年2月9日（木） 午後1時30分から午後3時まで
- ・会場 南木曾会館 1階ホール
- ・参加者 県民32名、向井南木曾町長、阿部知事、神事木曾地域振興局長 他
- ・テーマ 県境に位置する町の定住対策

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・夢を持って移住を決断したときよりも、ここに暮らし続けていくことに課題を感じている。中津川と隣り合わせで名古屋も近く、買い物、教育、病院などを町外に求める人も多い。便利ではあるが町の経済を潤すことにつながらない。町に暮らし続けるためのメリットやポジティブな将来像を描けなければ、この地を離れる選択をしても仕方がないと思う。安住の場として考えられるまちづくりと補助金に頼らない経済力がこの町には必要。
- ・ケガをしても駆けつけられる病院がない。今はフットワークが軽く病院に行けるが、歳を取って動けなくなったときにどうするか。

【知事】

- ・住みよい町にするにはどうしたらという話。木祖村では空き家を活用してやりたいことを話し合うというポジティブな感じがあった、南木曾でも同じことができると思う。ないものがいっぱいあるなら逆にやりやすいのではないか。
- ・病院の話は、木曾病院を充実しなければいけないし、中津川市民病院での救急対応に課題があるような状況を聞いたので改善したい。もっと医師の数が増えて身近なところに診療所がある県にしたいと思うが、確保が大変。県境なのでいろいろと課題があることは共有する。

【参加者】

- ・会社の創業時から町内や近隣市町村から従業員を受け入れている。今後、町や郡内の人口減少が進めば中津川市や他県からの採用を考えないといけない。採用した方に町内に移住してもらえば過疎対策にもなる。それを進める上では住まいが大事。民間の住まいが少ない。県からの手厚い支援、補助をもらえればと考えている。
- ・移住定住を促進しようとする、自然災害のリスクを軽減することが必要。土石流災害以降整備が進んではいるが、大雨での河川の氾濫により避難や国道の通行止めがリスクになる。右岸道路の建設などを進めてもらっているが、早期に工事を完了してもらいたい。

【知事】

- ・空き家の流通は県がしっかりやらないといけない部分だと思う。長野県の不動産は価格が安く不動産取引の手数料が低くなってしまっているので事業を行うモチベーションが湧かないと言われる。もう少し市場原理で動くようにしないといけない。
- ・住宅の問題で移住希望者を取り逃していると思っている。町でも空き家調査を行うそうなので、地域の皆さんで空き家対策に協力してもらいたい。
- ・災害リスクの話。県としても災害に強い県づくりを進めなければならないと思っている。知事になって県の借金残高を減らしてきたが、災害が続く中で安全安心を守るために防災減災の部分の起債は増やしている。国が管理している道路、河川については国にしっかり対応してもらおうよう求めていきたい。

【参加者】

- ・南木曾にはたくさんの企業があるが、一方でたくさんの課題もある。経営者の高齢化に伴う後継者不足。それに加え、コロナ、少子化の波、先が見えない現状がある。先日、商工会女性部の活動で講演会を開催した。講師は地域おこし協力隊だったが、何年も住んでいる自分よりたくさん町のことを知っていて、町を愛しているということを楽しそうに思った。2期までの協力隊員のうち7名が南木曾に住み続け、一部は起業している。女性部の組織を使って協力隊と一緒に南木曾を盛り上げていきたい。
- ・私が協力隊の人と関わりをもっていきたいと思ったのは、任期終了後に町に定住したという事実が大きい。事業の後継者は血筋でという考え方もあるが、町外から来た人でこの地でこれやりたいという人たちが担ってくれば地域も盛り上がると思う。

【知事】

- ・総合計画をつくるときに、東京で長野県出身ではない若者と意見交換したら、ほとんどが辰野町とながっていた。どうしてと聞いたら「対等に扱ってくれる」とのことだった。若い世代が何かをやろうとしているときにいろいろ言ったらみんなやる気をなくしてしまう。受け入れてくれることが大事。世界を見ても多様性を受け入れる地域でないと発展しない。
- ・長野県は産業の基礎、自然、子育て環境などいいものをいっぱい持っている。多くの人たちを受け入れてどう発展させていくか。南木曾町はたくさんの資源があるのでそれを活かせるはず。そこを一緒に考えたい。

【参加者】

・当町は長野や松本から離れた山間へき地であり、希望して赴任する先生が少ない。南木曾は小中学校に加え高校もある。人事における小・中・高連携システム、南木曾学校モデルと考えているが、例えば技術科など専門科の先生が小・中・高で授業を受け持つことができないか。教員間の交流を通して教師としての幅が広がるなど様々な利点があると思う。県境においても学びの場が確実に確保されるようお願いしたい。

【知事】

・人口減少下では一人多役でいかないと。高校の先生が小中学校でも教えるというのはこれからの社会では重要な視点ではないかと思う。ご提案はしっかり検討していきたい。

【参加者】

・町が自然環境に恵まれているということは、逆に言うと文化・教育施設から離れているということ。小さいうちは自然環境の中で育つのが大切だが、成長するにつれ子どもにはやりたいことが出てくる。木曾地域には2つの高校があるが選択肢が少ない。やりたいことを最大限伸ばしていけるよう、県外へも進学できるようその際の支援があればよいと思う。一旦は県外に出てしまうが、子どもたちの希望をかなえることと南木曾に帰ってきたいと思わせることが大事では。

【知事】

・町村では手厚い子育て施策をやっているが、高校進学時に遠距離通学になるか家族ごと引っ越すことになってしまう。人口減少の中では多様性がなかなかつくれる。その対応として、一つは山村留学。南木曾町にもぜひ検討してもらいたい。それと、長野県をサマースクールのメッカにしたいと思っている。サマースクールに県外から来てもらって、そこに県内の子どもたちも参加できるようにして普段とは違う学びができるようにしていきたい。

・違った観点だが、フリースクールの認証制度をつくって県として応援しようと思っている。加えて、コロナ時には限定的にオンライン授業が認められていたが、これを恒常的に学べるようにすれば遠距離通学が解消される。これは皆さんと国に言っていけないといけぬ。

【参加者】

・令和4年度から保育園が統合した。そのため保育園から義務教育までの10年間は1クラスで過ごすことになるが、このことはいいことなのかどうかと思う。

・今は虐待やDVなどはないが、あった場合には松本児童相談所に相談したい。しかし、緊急時の対応は松本だと遠い。管轄は違うが飯田児童相談所で対応してもらいたい。

・通院は中津川に行くことが多い。県境を越えた通院がスムーズにできるようにしてほしい。

【知事】

・普段と違う仲間と触れ合う機会について、山村留学やサマースクールでやっていきたい。

・県の機関の所管区域の話は、交通網が変わってきたので考えていきたいと思う。

【宮島木曾保健福祉事務所長】

・救急医療について、現在、木曾保健福祉事務所と岐阜県の恵那保健所で打合せを重ねている。皆さんの救急対応を岐阜県でスムーズに受けられるよう協定を結べるよう進めている。

【参加者】

・道路についてアクセスも十分に確保しないとイケない。右岸道路の工事を進めてほしい。他のアクセス道路も大事。リニア駅へのアクセスも考えると道路網の工事の進捗をお願いしたい。

【知事】

・県として右岸道路をしっかりと整備していきたい。岐阜県知事にも対応をお願いしている。

・リニアをどう活かしていくか、地域でも考えてもらいたい。人の流れが今までとは大きく変わってしまう。プラスの影響を受ける地域となるかマイナスの影響を受ける地域となるかは地域の取り組み方にかかっていると思う。将来のビジョンを皆さんと一緒に考えていく必要がある。

【参加者】

- ・自然減なので移住増が必要、魅力の発信が大事。魅力の捉え方は人それぞれかもしれないが、共通するのは教育。白馬高校に国際観光科があるが、蘇南高校にも観光科がほしい。越境入学の可能性があり、家族も一緒に移住してもらえる。
- ・なぜ観光科というと英語が重要な要素。オランダでは小学校から学習しているため、中学生になると英語で流暢に日常会話ができる。南木曾の教育の中に小学校から英語を入れるのがいいのでは。

【知事】

- ・高校改革について教育委員会にはもっと全国募集を考えた方がいいのではないかとっている。地域を発展させる基盤は教育と医療。医療は課題が多く、まずは医師確保を進めないといけないが、医師は自分の子どもの教育に関心がある。根源的には教育である。長野県にはそういう動きが出ている。軽井沢町の風越学園。建物に入るといきなり図書館がある。授業はほとんど外で行う。障がいのある子もない子も同じ場で学んでいる。公教育もこのようにやるべきだと思う。
- ・英語教育について、英語ができないと国際的なコミュニケーションが取りづらい。来年度は教育の改革に力を入れていきたいと思っているので皆さんの協力をお願いしたい。